■シリーズ■ 中学校武道 ―授業の充実に向けて㉒

つまずきをどう克服したか⑮

（空手道・生徒が主体的に臨むために）

茨城県取手市立取手第二中学校　教務主任　駒木　浩二

平成24年4月に文部科学省による中学校武道必修化が始まり、茨城県では初の試みとして、公立中学校である本校が、平成26年から「空手道」に取り組みました。公立中学校、しかも、県内初ということだったので、特別なノウハウがあるわけでもなく、体育部の教職員と外部講師が話合いを重ね、一から授業を創り上げてきました。

そして、学習指導要領の改訂に伴い、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められるなか、「空手道」の授業において、次の4点を実施しました。①ガイダンス機能の充実②ルーブリック評価の導入③一人一人の役割の充実④話合い活動の充実。また、生徒が興味関心をもって「空手道」の授業に臨むために競技や攻防の要素を導入し、1年生で基礎・基本・形を習得した後、3人でチームをつくり、チームで競い合う「団体形」、2年生では、さらに発展させた「タッチ組手」に取り組みました。

他のチームと競い合ったり、一対一での技の攻防があることで生徒は興味関心を持ち、主体的に授業に臨むことができました。

1 空手道の授業実施前の取組

(1) 本校と地域の実態

本校は、生徒数544名（平成30年11月）の、取手市内では一番大きな中学校です。公立の中学校では珍しく空手道部があり、今年で創部21年目をむかえました。毎年、夏に開催される全国中学生空手道選手権大会には、19年連続20回出場しています。また、市内には、取手市空手道連盟があり、世界チャンピオンや全日本チャンピオン、国際審判員を輩出したり、小さな子どもから大人までいつでも空手道が学べる環境が、整っていたりする空手道の盛んな地域です（スポーツ少年団1カ所、道場6カ所）。

また、本校では、保健体育の武道の授業においては、2013（平成25）年まで、「柔道」を実施してきました。しかし、その当時の保健体育の教職員で「空手道」経験のあるものが1名いたことと、地域の協力を得ることができるという理由から、2014（平成26）年に保健体育の武道の授業において、空手道が実施されることになりました。空手道が実施される前年には、全4回の空手道の校内研修が本校教職員対象に実施されました（第1・4回は座学、第2・3回は実技）。この研修を通して、全教職員で空手道の「安全性」や「取り組みやすさ」「特性」を学び、全教職員の理解を得ることができました（資料1）。

資料1　全4回の空手道の校内研修

(2) 最初の課題とその解決

茨城県内において、保健体育の武道の授業で、空手道に取り組む中学校は他にはなく、本校の取組は、茨城県内では初のことでした。そこで、最初に学校内の組織である教科研究部と体育部で、次に地域の協力者3名（以下：外部講師）と学校の体育部教職員とで、どのような授業を展開するか、空手道の授業を通して生徒たちにどのような力をつけたいかを協議することにしました。すると、外部講師と学校の教職員との間で、新たな課題が出てきました。それは、空手道の流派の問題でした。

空手道には、いろいろな流派があります。本校の保健体育の教職員は「剛柔流」、外部講師は「和道流」であり、同じ空手道でありながら、立ち方・技の攻防等で多くの違いがありました。それぞれの指導者は、「自分の流派を教えたい」という思いがありましたが、教職員と外部講師の教えに違いがあると、生徒は混乱してしまい、理解が深められないと考え、全日本空手道連盟から刊行された『空手道指導の手引』を「落としどころ」として共通理解を図り、毎時間ごとの授業の展開や目標を細かく設定・確認していきました。

2 実際の取組

(1) ガイダンス機能の充実

本校には空手道部があるもの、生徒に空手道のイメージを聞いてみると、多くの生徒が「痛そう」「板を割る」「よくわからない」という答えが異口同音に返ってきました。実際に、ほとんどの生徒が、空手道競技には、「組手」「形」の2つがあることを知りませんでした。

そこで、ガイダンス機能の充実が必要であると考え、授業の導入段階の1時間目に、世界選手権大会のDVDを体育館のスクリーンに映し、みんなで鑑賞することにより空手道に対する正しいイメージをもてるようにしました（資料2）。次に、1年生においては11時間の授業を実施して、12時間目には「団体形」の学習発表会をすること、そして「団体形」は、自分たちで審判や運営を行うこと。2年生においては10時間の授業を実施して、「タッチ組手」に取組むことをホワイトボードとワークシート（資料3）を使って説明しました。このような取組から生徒は、「空手道」に対する興味関心を高め、見通しをもって授業に臨

資料2　世界選手権大会を鑑賞

資料3　ホワイトボードを使って空手道をガイダンス

むことができるようになりました。

(2) ルーブリック評価の導入

ルーブリックとは、「目標に準拠した評価のための『基準』づくりの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標である」（文部科学省、２０１１）としています。つまり毎時間の授業ごとに、この時間にこれができるようになったら「A」、ここまでできたら「B」「C」というような評価基準を、授業のワークシートを通して、あらかじめ生徒に示し、授業を可視化することです。生徒たちが自らの立ち位置を自覚することによって、より高い次元を目指そうとすることで、意欲の向上・考える力の深化に繋げました。

ちなみに、本校の保健体育の観点は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」となっております。空手道の授業における「関心・意欲・態度」のルーブリック評価に次のようなことが評価基準としてあります。

C＝授業の始めと終わりに、「立腰」をして「礼」をすることができる。

B＝授業の「立腰」、さらに形の始めと終わりに「礼」ができる。

A＝B・Cのことができ、さらに体育館や武道場に入る時に「礼」ができる。

※「立腰」とは、本校が取り組んでいる、姿勢を正すことである。

ルーブリック評価を導入することにより、生徒たちの行動が自主的・自発的なものに変化していきました（資料４）。

資料４　生徒の行動が変化

(3) 一人一人の役割の充実

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の必要性を謳っています。本校では、主体的・対話的で深い学びを実現するためには、①学ぶことに興味・関心をもつこと、②生徒同士の協働、③教職員や外部講師との対話、④今まで身に付けた知識を手掛かりに自己の考えを広げ深めること、以上４点が必要と考えました。さらに、それらの活動のベースになるのは生徒同士の人間関係であり、生徒による「絆づくり」教職員による「居場所づくり」が必要であると考えました（文部科学省、２０１２）。

そこで、本校の教科研究部が中心となり、すべての授業において、話合い活動を取り入れることにしました。そして、各グループでは、生徒一人一人の役割を決め、スムーズな話合い活動ができるようにしました（資料５）。一人一人の役割は、次の通りです。

資料５　生徒の役割を決定

【グループでの話合い活動の役割】

①運搬（プリント等を集めたり・配る）

②記録（話合いの内容を詳しく記録する）

③司会（ファシリテーター役）

④発表（話し合ったことを発表する）

【空手道の練習・試合】

①キャプテン　②審判　③記録

④掲示　⑤進行　⑤号令・呼び出し（資料６）

一人一人の役割の充実を図ることにより、生徒が意欲的に授業に参加し、話合い活動が活発になりました。

(4) 話合い活動の充実

本校では生徒があらかじめ考えたことを、生徒同士や教職員、外部講師と意見交換や、議論したりすることで、自分の新たな考え方に気がついたり、自分の考えをより妥当なものにしたりすると捉えています。そこで、「空手道」の授業においても、積極的に話合いの「場」を設定しました（資料７）。

資料 6-1　記録

資料 6-2　掲示

資料 6-3　進行

資料 6-4　号令・呼び出し

資料 6-5　審判

資料７　教職員との意見交換

場の設定としては、次の通りです。

①授業の終わりのグループ内での振り返り（ペア・グループ）

②授業の最後の全体の振り返り

③「団体形」「タッチ組手」におけるグループ内の作戦会議（グループディスカッション）

④グループごとの説明・発表活動

⑤学習発表会運営ミーティング

⑥学習発表会役割ミーティング

⑦グループ練習活動では適宜（教え合い・気づきを伝える）

話合い活動を充実することにより、生徒が目標や身につける力を理解し、課題に興味をもって取り組むことができました。また、生徒が、自分の考えを伝え合い、批判的な視点をもつことにより、新しい発見や気づきが得られ、「空手道」に対する学びが深まり、表現する力が身につきました。

3 授業を通して見えてきたもの

最後に、授業を通して見えてきた「成果」「課題」を列挙します。今後とも本校では空手道を通して生徒が主体的に授業に臨めるよう努めてまいります。

(1) 成　果

①１時間目の授業で、「空手道」の種目や大会について、映像を使って視覚に訴えたことにより生徒の意欲が高くなったこと。

②「空手道」の単元において、どのような取組をするのか、どのような力をつけたいのかを伝えることにより、生徒は見通しをもって「空手道」の授業に臨むことができたこと。

グループ学習で意見交換をする生徒

集団での形演武

授業の最後は全員で黙想

団体形の競技会

③ルーブリック評価を導入したことにより、毎時間ごとの個人とチームの課題が明確になり、授業に意欲的に取り組むことができたこと。

④役割を明確化したことにより、授業においての自分の居場所づくりができ、主体的に実技や話合い活動に取り組めたこと。

⑤話合い活動を充実させることにより、友達との意見交換や比較から、自分の考えを深め、表現する力が身についたこと。

⑥生徒が、自分たちの住む地域は、空手道が盛んであり、日本国内や世界で活躍する選手や審判員がいたことを知り、自分たちの地域に誇りをもてるようになったこと。

⑦日本の武道を学ぶことにより、礼節の大切さを実感し、日頃のあいさつや返事、友達を思いやる気持ちの育成に繋がったこと。

⑧地域の協力を得て授業を創り上げていくことにより、空手道未経験の体育教師も協働の喜びを味わうことができたこと。

(2) 課題

①公立中学校なので、定期的な人事異動があるため、空手道経験のある体育の教職員の確保が難しいこと。

②指導する側（教職員・外部講師）のルーブリック評価をつくると、さらに学習課題の把握や生徒のつまずき、教職員間や外部講師との共通理解が図ることができること。

③「空手道」の授業が、技術指導にならないように、教科研究部の教職員・体育部の教職員・外部講師の三者が、定期的に話合いの場をもち、「空手道」の授業を通して生徒たちに、どのような力をつけたいのか、さらには「学校教育目標」との擦り合わせを図る必要性があること。

▽引用参考文献

①「中央教育審議会大学教育部会説明資料」（文部科学省、２０１１）
②「生徒指導リーフ『絆づくり』と『居場所づくり』」（文部科学省、２０１２）

学習計画

1	オリエンテーション グループ編成，種目の特性（ルール・マナー）の確認 学習計画の作成		
	課題	技能	審判法
2	空手道の基本を学ぼう。	・ 空手着の着方 ・ 基本動作（礼法，立ち方）	
3	突き技について理解しよう。 ・ 平行立ちの突き ・ 前屈立ちでの移動	・ 平行立ちの突き ・ 前屈立ちでの移動	
4	受け技について理解しよう。	・ 平行立ちの上段受け ・ 前屈立ちで上段受け ・ 平行立ちの下段受け ・ 前屈立ちで下段受け	
5	移動しながら受け技をしよう。	・ 前屈立ちで移動しながら上段受け ・ 前屈立ちで移動しながら下段受け	
6	上段突きと上段受けの攻防を通して，受け技の重要性を理解しよう。	順突き，上段受けでの攻防 ・ タオルでの攻防 ・ 平行立ちでの攻防 ・ 前屈立ちでの攻防	
7	蹴り技について理解しよう。	・平行立ちでの中段前蹴り ・前屈立ちでの中段前蹴り	
8 9	基本形をやってみよう①	・第１拳動～第 20 拳動まで	
１０ １１	グループで基本形をやってみよう②	・第１拳動～第 20 拳動まで	
１２	グループ形の発表会	・ 第１拳動～第 20 拳動まで	・目付け（集中力） ・気合（発声） ・技の力強さ スピード（身体） ・残心（心） などの観点から評価をしていく

目標

学び方・態度	技能・記録

体育学習カード

空手道 １２時間扱い	年	組	番	名前

メンバー

名　前	係

１時間の授業の流れ

1 着替え
2 あいさつ （課題の確認）
3 準備運動・補強運動（グループ毎）
4 活動
5 まとめ （学習カード記入）
6 集合あいさつ （学習カード提出）

時間（分）	１０	２０	３０	４０
活動の内容	着替え あいさつ 準備体操	活動		まとめ ｶｰﾄﾞ記入 あいさつ

	月日	自己評価 ◎ △ ×	高まったこと，気づいたこと，工夫したこと，試してみたこと	次の時間のめあて
2		学習の仕方がわかった。 自分の力に合った目標を定めた。		
3		ルールやマナーを守り安全に注意して活動した。 目標を達成するために意欲的に取り組んだ。		
4		ルールやマナーを守り安全に注意して活動した。 目標を達成するために意欲的に取り組んだ。 お互いに教え合って活動した。 練習の仕方が分かった。 技能の高まりがあった。		
5		ルールやマナーを守り安全に注意して活動した。 目標を達成するために意欲的に取り組んだ。 お互いに教え合って活動した。 練習の仕方が分かった。 技能の高まりがあった。		
6		ルールやマナーを守り安全に注意して活動した。 目標を達成するために意欲的に取り組んだ。 お互いに教え合って活動した。 練習の仕方が分かった。 技能の高まりがあった。		
7		ルールやマナーを守り安全に注意して活動した。 目標を達成するために意欲的に取り組んだ。 お互いに教え合って活動した。 練習の仕方が分かった。 技能の高まりがあった。		
8		ルールやマナーを守り安全に注意して活動した。 目標を達成するために意欲的に取り組んだ。 お互いに教え合って活動した。 練習の仕方が分かった。 技能の高まりがあった。		
9		ルールやマナーを守り安全に注意して活動した。 目標を達成するために意欲的に取り組んだ。 お互いに教え合って活動した。 練習の仕方が分かった。 技能の高まりがあった。		
10		ルールやマナーを守り安全に注意して活動した。 目標を達成するために意欲的に取り組んだ。 お互いに教え合って活動した。 練習の仕方が分かった。 技能の高まりがあった。		
11		目標を達成するために意欲的に取り組んだ。 ルールやマナーを守り安全に注意して活動した。 技能の高まりがあった。		

グループ発表を終えて

目標到達度　　理由
　　%

空手道をやってみての感想

この種目の MVP は？（理由も）